

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

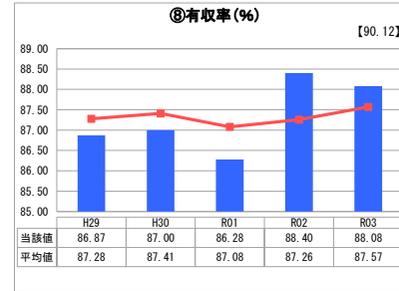
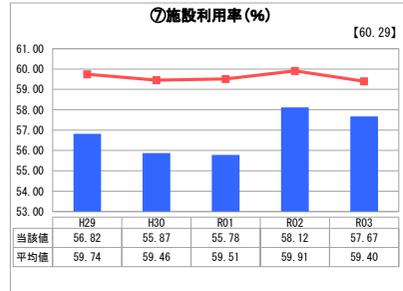
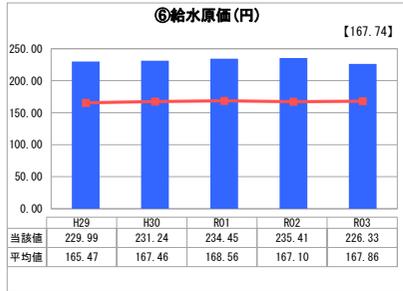
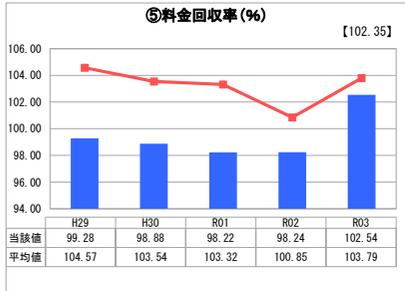
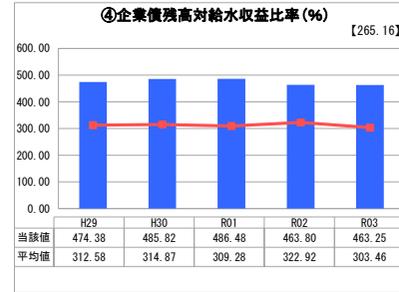
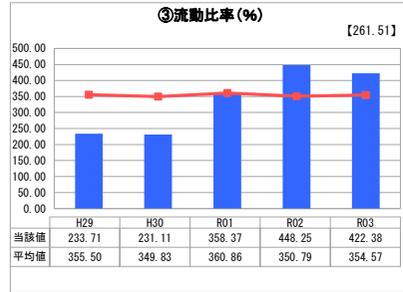
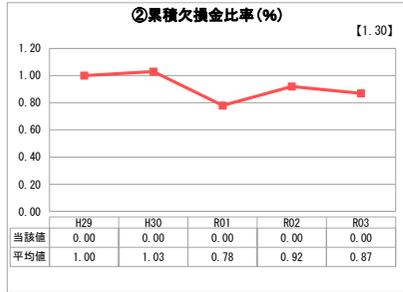
佐賀県 伊万里市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	71.45	94.51	4,500	

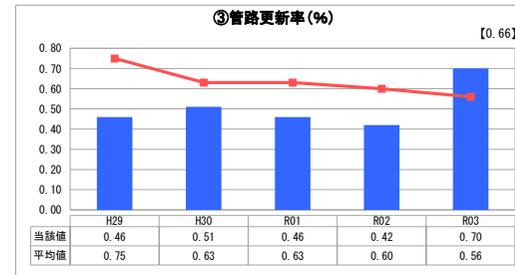
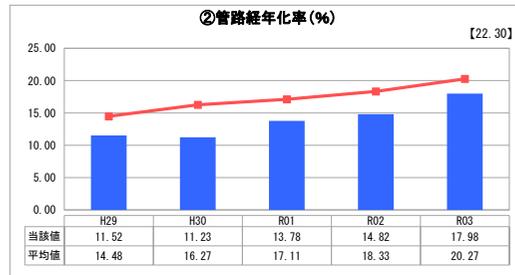
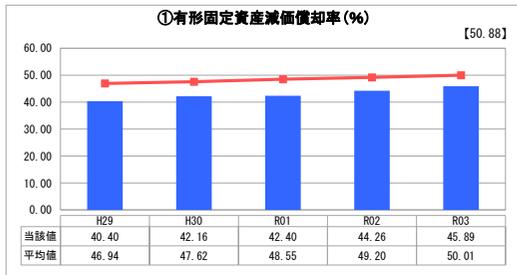
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
53,336	255.25	208.96
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
50,146	88.15	568.87

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経営の健全性について  
 ①経常収支比率及び⑤料金回収率は、100%以上となっており、②累積欠損金もなく、健全な経営状態にある。  
 ③流動比率は平均値を上回っている。これは未払金が減少したためであるが、資金運用に支障はない。  
 ④企業債残高対給水収益比率は、平均値より高くなっているが、平成29年度に策定した伊万里市経営戦略で、毎年の企業債元金償還額より企業債の借入額が上回らないよう定めており、企業債残高が徐々に減少していくよう計画している。以上より、現状では健全性は保たれているものの、今後、人口減少に伴う給水収益の減少により、収支は悪化するものと思われる。  
 ②経営の効率性について  
 ⑥給水原価は、給水区域が広いことに伴い給水に要する費用がかかることや、営業費用に占める減価償却費の割合が高いことから平均値より高くなっている。  
 ⑦施設利用率は、平均値を下回っている。配水量も今後減少していくと思われる。施設利用率が改善した理由は、施設の配水能力を取水可能量から施設能力に修正したためである。⑧有収率は、老朽管更新による漏水対策により年々改善している。今後も老朽管からの漏水を防ぐため、計画的な老朽管の更新を実施する。以上より、更新は実施しているものの、効率性は低いため、施設の統廃合や維持管理費の削減を検討する必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は平均値を下回っており、水道施設全体で適正な更新を行っていることを表している。  
 ②管路経年化率は平均値を下回っているが、年々老朽化が進行している。平成29年度から老朽管の更新により改善している。  
 ③管路更新率は、おおむね計画的に更新を実施しているため、平均値を上回っている。  
 以上より、水道施設全体としては順次更新を行っているが、管路に関しては老朽化が進行しているため、平成29年度に策定した水道施設更新計画を基に計画的な更新を行う必要がある。

### 全体総括

現状では、経営の健全性・効率性が保たれており、老朽化への対応はおおむねできているが、今後、給水人口の減少に伴う給水収益の減少や、老朽化した施設の更新に伴う減価償却費の増加等により、経営が圧迫されると考える。  
 安全・安心で良質な水道水を安定的に供給するため、費用の削減に努めるとともに、平成29年度に策定した水道ビジョン、経営戦略及び水道施設更新計画を基にした中長期的な運営方針により、将来にわたり安定した事業の継続が必要である。